

路線バスの現状について【報告】

1. 報告内容

東濃鉄道株式会社が運行する路線バスの現状を報告するもの。

2. 報告を行う理由

路線バスの運行においては、運賃収入だけではなく、国及び県の公的負担（補助金）を受けたうえで、更に貸切バスの収入等を充当することで運行を維持していたが、新型コロナウイルス感染症対策の影響により運行継続が困難となっている。

多治見市の公共交通網の形成で重要な要素の 1 つとなっているため、今後の公共交通の在り方に大きく影響を及ぼすことから状況を報告・共有するもの。

3. 輸送人員の状況

平成 25 年度からの路線バスの利用者状況を資料 5－2 にまとめた。

4. 事業概要

路線バス事業

平成 25 年度からの状況では毎年輸送人員が減っている。

特に、令和 2 年度（バス年度の令和元年度）からの移動制限により利用者が減少。

輸送人員は、令和 3 年度には平成 25 年度の 55.7% となり、令和 4 年度も横ばい、行動制限が解除された現在においてもほぼ横ばいの状態である。

大都市圏ではほぼコロナ前に近い状態まで回復しているが、東濃地方においては回復する傾向がみられない。

更に運転手不足により路線本数の維持が困難となり、10 月 10 日より減便せざるを得なくなった。

貸切バス事業

新型コロナウイルス感染症以前は、40 台の貸切バスを運行し路線バスの赤字を補っていた。

令和 2 年度（バス年度の令和元年度）からの移動制限により稼働がなくなる。

経費削減と収入のためバスを 25 台まで整理。

令和 5 年度に入り行動制限が緩和され、貸切の稼働率は上昇しているものの、現行の台数では路線の損失を補填することは不可能な状態である。

5. 今後について

路線継続、代替交通については、公共交通会議において、検討し公共交通計画に反映させる